

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム V2.7.0 (2016) | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	オープンレジデンス ア ナゴヤドーム前矢田 新築工事	階数	地上11F
建設地	名古屋市東区矢田五丁目301番	構造	RC造
用途地域	防火地域、準防火地域、絶対高31m高度地区、緑化地域、第一種特別工業地区、大規模集客施設制限地区	平均居住人員	276 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2023年9月 予定	評価の実施日	2023年8月24日
敷地面積	3,265 m ²	作成者	
建築面積	1,607 m ²	確認日	2023年8月24日
延床面積	10,301 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 100%

③上記+②以外のオンサイト手法 100%

④上記+オフサイト手法 100%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.8

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.4

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.9

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.8

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
計画地は北側は住宅街が広がりで静かで落ち着いた雰囲気が漂うエリアである。一方南側一帯には様々な大型施設が点在し、また大曽根駅や環状線、ゆとりとラインが走るなど、交通の利便性も高い。その中で不均質なボリューム・スパンを「モンドリアンクロス」の織りなす直線の力強さや洗練された直線美を取り入れ、デザインとした。	特になし	
Q1 室内環境 開口部にはLow-E複層ガラスを採用することで高い断熱性能を確保し、遮音性能の高いサッシとすることで快適な住環境としている。また、シックハウス対策として全面的にF☆☆☆☆を採用している。	Q2 サービス性能 建物の外周には周辺環境への調和を計るため、積極的に緑地帯を設けることで日常生活の中で緑を感じられるよう配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 南側幹線道路に面し緑地帯を設け、日常生活の中で緑を感じられるよう配慮している。
LR1 エネルギー 省エネルギー対策等級4を満たす断熱計画をしている。	LR2 資源・マテリアル 有害物質を含まない資材を使用することにより、安心・安全な住環境の実現に努めている。	LR3 敷地外環境 ゴミ置場は主要道路に面するのではなく、道路面から引いた位置に計画することで、周辺環境への配慮を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

オープンレジデンシア ナゴヤドーム前矢田 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
 ■評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.6
LR1	エネルギー	3.9	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.8
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.5	0.01666667	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.6
	
2. 自然共生	評価点 = 1.9
	
3. 循環型社会	評価点 = 2.8
	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。